

文久三年十一月二十八日より文久三年十二月二日まで

P8311060 right

の賀赤飯夫々配達奴婢共に迄および聊か賀□を設く、出殿、品川碇泊の幸船より回国使節一行等上陸滞在の儀申立しより既に肥州には差留として出張せし処、猶自分にも相越、説諭を加へ

候様、河内守殿より被命午下第一時より出向の処、既に上陸済海寺へ趣き候、出合の間同寺に至り談判、帰途夕

第六時迄河内殿邸へ出、縷々申上げ見込の所は筑豆兩州へ申達す様御談に付、帰宅即時(第八時)子)豆州

方へ文通を以申遣す、返書さし越す、伊豆□より寒見舞として小品差越せし旨、今朝山本(長)旧北堂方二種持参

廿九日未 晴

昨に残賀の使を出す、阿部(真)兄一橋館勤、函館行くを贈る詩文一篇□真をして■【判読不可】
■菓少許

贈らるに付、右は返す、出殿、黄昏退出、□寒見舞に來り、貝柱少許贈りし旨、牛姑今日
帰宅に付、謝品(反■一反魚一■)

贈りし旨、寺山昨同様■【文字判読不可】■助方より寒見舞として鶏卵一折贈り來る

P8311060 left

十二月

朔日申西 晴

御仮御殿に付、月並御札無し、広沢(悦)來り柑一籠持参、富沢叔母寒見舞旁広沢用令謝
として■

鶏一大筥、白袖老反を贈らる、出殿、早退出、小笠原(□)より栄転賀として魚数尾贈り越旨、
□□家

世話受け由、信州住人斉藤進と申すもの來り富沢叔母の請により面晤一札を謝し候
伯母りう

一同帰□り、広沢(悦)また來り酒飯を設く、藤山へ寒見舞(荒目卷一重)を遣せし旨、柳亭稽
古來る、幸国条約の儀に付評議有し明日五時登城様、竹本より廻狀來る、河津へ廻達す

二日酉戌 晴

昨達により五つ時登城決議建白の上、豫豆兩州済海寺へ廻る、寺山一昨同様來る、藤山稽
古來る、永持書籍しらべに來る、寒見舞として鮭一隻(*)を贈られ、且旧北堂へ海苔を贈らる
以上三名へ

*1数え方単位辞典(web)によると「隻」があります。

()内は細字双行(二行に小さい文字で二行書き)などの場合です。

□印は解読未了の文字です。私の実力ではすぐ解読できません。

【文字判読不可】、■は、文章の一部に汚れ、虫食いにより文字が無い等です。